

第83回 経営協議会 議事要録

- 日 時 令和5年1月26日(木) 13時30分～14時30分
- 場 所 大学本部棟第二会議室 及び オンライン
- 委 員 日比野克彦 学長【議長】、迫 昭嘉 理事・副学長(教育担当)、
清水泰博 理事・副学長(研究担当)、
大場 武 理事(総務・財務・施設担当)・事務局長、
中村政人 副学長(大学改革・渉外担当)、
佐野 靖 副学長(社会連携担当)、
赤羽真紀子 委員、岡田武史 委員、高橋陽子 委員、二宮雅也 委員、
御立尚資 委員、湯浅真奈美 委員、吉本光宏 委員
- 陪 席 上田良一 監事、浜田健一郎 監事、麻生和子 理事、
岡本美津子 副学長(デジタル推進担当)、
今村有策 副学長(国際連携担当)、
光井 涉 美術学部長、
桐山孝司 大学院映像研究科長、熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長、
黒川廣子 大学美術館長、大森晋輔 附属図書館長
- 欠 席 国谷裕子 理事【陪席】、杉本和寛 音楽学部長【陪席】、
河野文昭 演奏芸術センター長【陪席】
箭内道彦 学長特命(大学改革・ブランディング戦略担当)【陪席】

議題

なし

懇談事項

1. 「芸術未来研究場」について
標記のことについて、議長から資料に基づき報告があった。
主な意見は以下のとおり
- 「研究場」と「場」にしたのが藝大らしく、いい取り組みだと思う。
 - 国の財源がついたものについては、期限付きのものは、期限が終わった後、自主財源を用意しておかないといけない。裏側にある財務計画をつくり、研究部分と、それを支える周辺部分にどのように使うかを考慮していくことが必要であろう。
 - 国に対しても、理工系だけではなく芸術系、リベラルアーツに力を入れないといけないと提言する必要がある。
 - サイエンスとの人文系とアートとの融合、その垣根をどのように外していくか。海外との取り組みも進めていくといい。
 - アートと福祉とはロンドンが世界を牽引し、その知見を活かし藝大のTURNプロジェクトDoorプロジェクトが始まり、今回の芸術未来研究場につながっている。
 - 経済界においてはSDGs推進などに取り組み、市民社会において社会課題解決などに取り組んできたが、それは何のために行ってきたかといえば、「人間の安全保障」につながるものであり、地球の根幹で人間が安定して存続するためであった。人間の安全保

障とは「人間の生存、生活、尊厳を確保するため」であって、日本の外交の根幹において、日本が世界をリードしているところである。藝大が掲げる「芸術未来研究場」やその申請構想にも、「人間の安全保障」という言葉を掲げてはどうかと思う。

- 企業においては、財務的価値ではなく目には見えない非財務的な価値、イノベーションや人的資本もよく言われているが、その一つとして「アート之力」も位置づけて行っているかどうかを考えている。社会課題に対して、取り組みの処方として、芸術がもっと現実的な解を出せるということを示すことで、企業の理解が進むのではないか。また、JICA等の連携や国際的なNPO、NGOと連携してはどうかと思う。
- 芸術はSDGsのゴールに出てこないが、芸術は社会のインフラである。つまり芸術は社会を下支えするものであり、福祉の向上や経済の発展に不可欠なものである。それぞれの立場に働きかけ、10年後には自分ごととして考えられること。それぞれのセクターを超えて考えることが必要であり、藝大は言葉にして明言しながら、目指す先を示し続けることが長期的に考える上で必要かと思う。
- SDGsが2030年までの取り組みであるので、その後の社会が求めるものに答えられるように構築していくといいと思う。SDGsが叶える職業で、ゴール16「平和」を叶える職業にアーティストやミュージシャンと書かれていた。藝大に関わる先に「平和」がある。
- 産業界で使われている言葉と、人文系の大学で使われている言葉と異なり、同じことを言っているにも関わらず噛み合わないところがある。産業界で伝わるように翻訳して、相手に合わせて伝えて行くといいのではないか。
- アート、文化が社会課題に向かい合うことは今後も益々求められていくだろう。何か大きなことをする時は、財務的なバックアップが必要となるが、例えば「レンガを積む」という仕事に対しても「大きな教会を作るためにレンガを積んでいる」と、大きな目的を積極的に伝えて行くことで財務的支援につながる。学長自らが積極的に目的を社会に伝え、社会に「藝大が何か面白いことをやっている」というワクワクするような活動を見せていってはどうか。
- ファンドレイジングの観点からみると、社会とつながったアートが何を目指し、何が達成できたかという指標をあるといい。企業にとっては「なぜアートと連携する必要があるのか」という説明が必要となる。
- 今の社会情勢の中で改めて「平和」という言葉を使っていくのもいいのではないか。また「自由」という言葉もある。
- 藝大の第4期の基本方針において「アート之力による、または、アートと異分野との融合による、社会的課題の解決」と明言している。国が示した文化芸術推進基本計画（第1期）から、文化芸術を「本質的価値」と「社会的・経済的価値」とに分けて考えるようになり、第2期策定においてもその社会における価値について議論されている。藝大が「社会的解決」と言い切ってしまうこととは、メッセージとして強いと思う。
- 平和経済人会議が広島で行われる予定であり、G7 広島サミットも開催される。そのような場で必ずアートも関わるように働きかけてはどうか。また、G7のほかに、A7 (ART) と称して各国の芸術系大学を集めるのもいいと思う。

報告及び連絡事項

1. 令和5年度 運営費交付金内示の概要について
標記のことについて、大場理事から資料に基づき報告があった。
2. 本学の取組について
議長から、芸術文化における本学の近況について報告があった。
(本学の取り組み)
 - ・ 2022/10/22 NMWA 日本委員会・東京藝術大学共催パネルディスカッション
「アート、ジェンダー、社会」を開催
 - ・ 2022/11/2 2022 年度香川県・東京藝術大学連携事業 海は人を愛する
「さとゝうみ」展開催のご案内

- 2022/11/2 ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー派遣第三期生が決定！
- 2022/11/24 「藝大アーツイン丸の内 2022」が東京丸の内・丸ビルほかで開催（10/17-10/23）
- 2022/11/25 東京藝術大学発ベンチャーの株式会社cotonの「西新宿5G Sounding City プロジェクト」が「スマートシティフェスタ」に出展
- 2022/12/6 東京藝術大学と三菱地所、包括連携協定を締結
- 2022/12/10 千住 Art Path 2022
- 2022/12/15 ウクライナ及びその 京成電鉄 旧博物館動物園駅 VR「デジタルハクドウ駅」を公開
- 2022/12/15 東京藝術大学国際交流棟（Hisao&Hiroko TAKI PLAZA）完成記念式典を開催
- 2022/12/22 東京藝術大学発ベンチャー「株式会社 cotton」が音の XR 体験「Sound Garden」を新宿で実施
- 2022/12/19 寛永寺との連携協定締結式について
- 2022/12/27 蓄音機コンサート「蓄音機で聴く室内楽の愉しみ～伝説の名演の味わい～」を開催（附属図書館）
- 2023/1/20 大学院映像研究科 MEDIA PRACTICE22-23
- 2023/1/28～ 第 71 回東京藝術大学 卒業・修了作品展 美術学部
大学院美術研究科修士課程
- 2023/1/28、29 映画専攻 17 期生修了上映会

以上